

# 平成 16 年度 私立大学教員の授業改善白書

授業で直面している問題点

今後 2 年以内を実現したい授業

授業改善のための課題

授業での I T 活用状況

授業での I T 活用事例、活用計画

先進的な授業事例の紹介

授業で I T を活用した場合の効果と問題点

一大学では解決できない取り組み

教育改善のための課題と対応策のまとめ

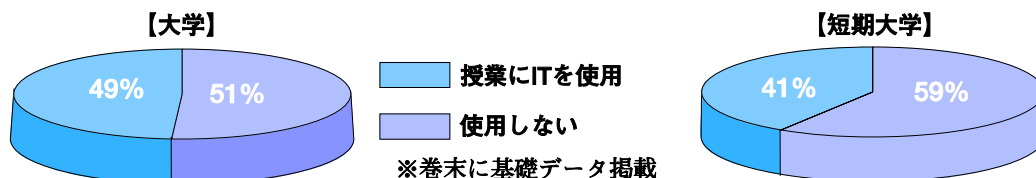
平成 17 年 5 月

社団法人私立大学情報教育協会

調査対象 : 本協会加盟の大学・短期大学における全専任教員（講師以上）

	調査対象		回答状況		回収率
大学	339校	56,345名	335校	25,521名	45%
短期大学	161校	4,500名	155校	2,347名	52%

〔16年度調査回答者の内訳〕

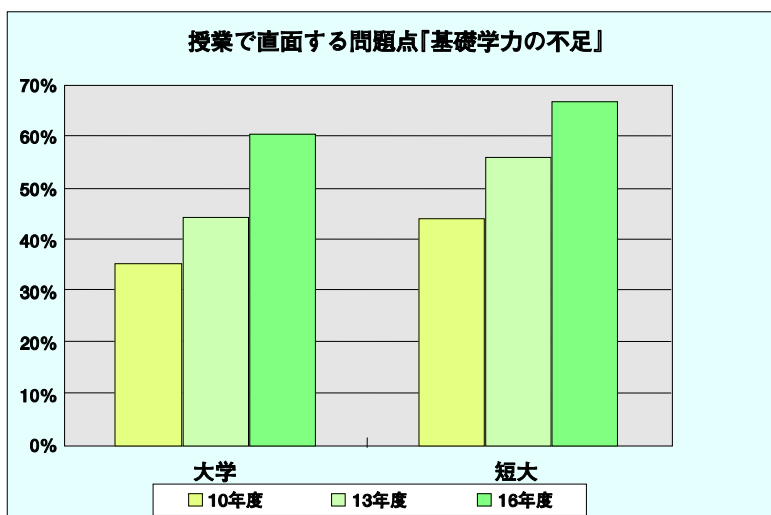


### 授業で直面している問題点

学生に関する問題では、『基礎学力の不足』が一層顕著に

大学では、基礎学力の不足がどの学系でも6割程度となっている。特に、理工系では7割以上の教員が問題としている。2番目には、学習意欲の不足が4割程度となっている。ただし、芸術系では目的意識を持った学生が多いこともあり、2割程度と低い。短期大学でも大学と同様に基礎学力の不足が約7割、学習意欲の不足が約4割となっている。

3年前と比較すると、図1の通り、基礎学力の不足は、大学では44%が60%に、短期大学では55%が66%に増加しており、深刻な状況となっている。



〔図1〕授業で直面する問題点として『学生の基礎学力の不足』の経年比較

	総計	人文科学系	社会科学系	工学系	理学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他系
上段：大学回答者	22,638名	4,940名	4,620名	2,851名	1,985名	1,411名	499名	3,699名	551名	1,049名	655名	378名
下段：短期大学回答者	2,033名	448名	266名	154名	51名	152名	35名	132名	366名	214名	181名	34名
授業に出席しない	16.3% 6.8%	14.5% 8.9%	24.4% 6.4%	9.5% 6.5%	12.2% 5.9%	15.4% 9.9%	8.0% 5.7%	20.1% 4.5%	5.3% 4.6%	14.0% 6.5%	14.2% 7.2%	17.7% 5.9%
言葉が理解できない	13.9% 20.2%	13.1% 17.6%	16.9% 26.3%	13.0% 16.2%	11.4% 19.6%	16.8% 18.4%	16.2% 28.6%	10.6% 28.8%	16.0% 19.9%	15.0% 19.6%	16.6% 16.0%	14.0% 20.6%
基礎学力がない	<b>60.1%</b> <b>66.0%</b>	<b>62.8%</b> <b>75.0%</b>	<b>59.1%</b> <b>61.7%</b>	<b>69.3%</b> <b>72.7%</b>	<b>74.8%</b> <b>72.5%</b>	<b>57.3%</b> <b>60.5%</b>	<b>57.3%</b> <b>62.9%</b>	<b>50.7%</b> <b>66.7%</b>	<b>60.1%</b> <b>64.8%</b>	<b>40.8%</b> <b>55.6%</b>	<b>55.6%</b> <b>60.8%</b>	<b>60.3%</b> <b>73.5%</b>
学習意欲がない	<b>40.4%</b> <b>37.6%</b>	<b>36.6%</b> <b>33.3%</b>	<b>37.7%</b> <b>43.2%</b>	<b>49.7%</b> <b>59.7%</b>	<b>43.3%</b> <b>54.9%</b>	<b>44.6%</b> <b>40.8%</b>	<b>35.5%</b> 25.7%	<b>46.4%</b> <b>31.8%</b>	26.9% <b>36.6%</b>	<b>33.6%</b> <b>33.2%</b>	22.7% 27.1%	<b>36.8%</b> <b>41.2%</b>
個別指導を受け入れない	0.5% 0.7%	0.5% 0.2%	0.6% 0.0%	0.5% 0.0%	0.2% 2.0%	0.6% 1.3%	0.2% 0.0%	0.5% 3.0%	0.9% 0.8%	0.9% 0.5%	0.9% 1.1%	1.1% 0.0%
その他	14.1% 13.6%	15.7% 10.3%	12.7% 10.5%	10.4% 3.9%	10.5% 7.8%	15.2% 20.4%	19.0% 25.7%	11.2% 15.9%	21.6% 13.7%	26.1% 20.1%	21.4% 17.7%	15.6% 17.6%

〔表1〕授業で直面する問題点『学生に関する問題』

## 教員に関する問題では、『学習意欲を高める工夫が難しい』

大学、短期大学とも5割程度の教員が、学習意欲を高める工夫が難しいとしており、学生の学習意欲を引き出すような授業作りに苦慮している。また、大学・短期大学とも3割前後がカリキュラム内での連携がとれていないために、授業の内容や水準に不安を抱いており、教授法の改善に苦慮していることが伺える。IT活用教員と活用しない教員で見ても、学習意欲を高める工夫が難しい、関連教科の連携をとっていないという傾向に差異がないが、若干、ITを活用しない教員の方が、社会科学、工学、理学の分野で、学習意欲を高める工夫に5%から10%程度、苦慮している割合が高くなっている。

上段：大学回答者 下段：短期大学回答者	総計	人文学系	社会科学系	工学系	理学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他系
	22,283名 2,000名	4,834名 431名	4,555名 267名	2,727名 147名	1,877名 45名	1,363名 149名	507名 38名	3,737名 137名	559名 356名	1,117名 223名	631名 173名	376名 34名
学生の能力・気質に見合う授業ができない	14.1% 16.4%	14.0% 17.4%	14.3% 21.0%	16.5% 15.6%	18.2% 13.3%	15.8% 19.5%	14.2% 7.9%	11.4% 15.3%	10.0% 15.4%	11.9% 13.5%	9.8% 13.9%	16.5% 14.7%
学習意欲を高めるような工夫が難しい	<b>47.6%</b> <b>50.0%</b>	<b>46.6%</b> <b>46.4%</b>	<b>47.4%</b> <b>59.6%</b>	<b>53.8%</b> <b>63.9%</b>	<b>53.1%</b> <b>75.6%</b>	<b>50.8%</b> <b>57.0%</b>	<b>42.6%</b> <b>39.5%</b>	<b>47.2%</b> <b>47.4%</b>	<b>40.8%</b> <b>48.6%</b>	<b>38.1%</b> <b>43.9%</b>	<b>36.1%</b> <b>32.4%</b>	<b>47.9%</b> <b>61.8%</b>
教材作成のための技術が十分でない	11.8% 12.6%	12.9% 14.4%	12.7% 14.2%	9.4% 8.8%	9.0% 11.1%	5.7% 6.7%	13.6% 18.4%	13.4% 15.3%	17.4% 15.2%	15.6% 10.8%	8.2% 9.2%	11.2% 2.9%
学内で関連教科と連携をとっていない	27.8% 27.5%	26.4% 26.7%	<b>31.5%</b> 25.5%	20.6% 22.4%	23.9% 26.7%	24.4% 18.8%	<b>32.1%</b> 26.3%	<b>31.5%</b> <b>32.1%</b>	<b>32.7%</b> 27.2%	27.8% <b>32.3%</b>	<b>31.5%</b> <b>35.8%</b>	29.0% 26.5%
学生とのコミュニケーションが難しい	17.6% 11.6%	15.6% 12.3%	18.9% 10.5%	19.1% 14.3%	17.7% 13.3%	17.5% 13.4%	18.3% 10.5%	18.2% 13.1%	12.7% 9.8%	16.8% 11.2%	16.0% 11.0%	20.2% 5.9%
その他	12.9% 13.8%	14.0% 13.5%	10.8% 8.2%	12.4% 6.1%	12.6% 11.1%	16.2% 19.5%	14.4% 26.3%	10.4% 13.1%	16.5% 14.9%	17.5% 17.0%	17.9% 16.8%	9.8% 14.7%

〔表2〕授業で直面する問題点「教員に関する問題」

## 大学に関する問題では、『教育に対する組織的な支援がない』

5割近くが組織的な支援がないことを第一に取り上げている。その他に、3割近くが教育内容・方法を議論する組織がないなどファカルティディベロップメント(FD)への取り組み、さらにはFDの成果を評価する教育努力への評価システムが十分でないとしている。短期大学においても、大学とほぼ同様だが、組織的な教育支援不足がとりわけ大きな問題となっている。IT活用教員と活用しない教員で見ても、以上の傾向に変化はないが、大学では、IT活用教員の方が組織的な支援が不可欠であることと教育努力に対する大学としての評価を希望している。短期大学では、IT活用教員の方が経営の危機意識を反映して組織的支援に対する不安が高い。

上段：大学回答者 下段：短期大学回答者	総計	人文学系	社会科学系	工学系	理学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他系
	21,983名 1,910名	4,747名 396名	4,447名 254名	2,694名 144名	1,819名 47名	1,332名 145名	510名 37名	3,739名 124名	551名 340名	1,107名 214名	674名 176名	363名 33名
人材育成の具体的なカリキュラム及び履修指導が十分でない	15.3% 13.3%	16.1% 14.1%	16.8% 19.7%	11.5% 14.6%	14.2% 6.4%	14.1% 15.9%	13.5% 5.4%	17.7% 16.1%	16.2% 15.0%	12.6% 7.5%	12.3% 4.5%	14.3% 12.1%
組織的な教育支援が十分でない(人、物、金)	<b>44.2%</b> <b>50.6%</b>	<b>43.4%</b> <b>49.5%</b>	<b>43.3%</b> <b>45.7%</b>	<b>42.8%</b> <b>50.7%</b>	<b>42.7%</b> <b>44.7%</b>	<b>49.2%</b> <b>49.0%</b>	<b>42.9%</b> <b>51.4%</b>	<b>45.2%</b> <b>62.1%</b>	<b>47.5%</b> <b>51.5%</b>	<b>45.1%</b> <b>48.6%</b>	<b>46.7%</b> <b>55.7%</b>	<b>43.5%</b> <b>48.5%</b>
教育内容・教育方法を議論するための専門組織がない	25.8% <b>32.9%</b>	27.2% <b>30.1%</b>	27.0% <b>32.7%</b>	22.7% <b>37.5%</b>	26.8% <b>42.6%</b>	22.7% <b>30.3%</b>	27.8% 27.0%	24.0% <b>44.4%</b>	26.9% 28.2%	26.9% <b>35.5%</b>	26.9% <b>32.4%</b>	28.1% <b>45.5%</b>
優れた教育業績を評価する仕組みが十分でない	26.3% 18.5%	23.4% 21.2%	23.4% 18.9%	28.1% 13.9%	25.7% 36.2%	25.1% 22.8%	24.3% 35.1%	<b>36.9%</b> 18.5%	15.4% 15.0%	20.6% 14.0%	22.8% 15.9%	26.4% 18.2%
成績評価の厳格化について学部等としての統一性がない	21.3% 15.7%	20.7% 16.4%	26.4% 17.3%	25.4% 16.7%	23.6% 19.1%	18.2% 16.6%	24.5% 18.9%	15.0% 12.1%	20.0% 15.6%	18.8% 17.3%	15.3% 11.9%	17.9% 3.0%
その他	9.3% 8.3%	10.0% 7.8%	8.5% 5.9%	9.2% 3.5%	9.8% 8.5%	11.6% 5.5%	10.8% 2.7%	6.3% 4.0%	11.4% 12.6%	13.4% 13.6%	11.4% 7.4%	9.6% 12.1%

〔表3〕授業で直面する問題点「大学に関する問題」

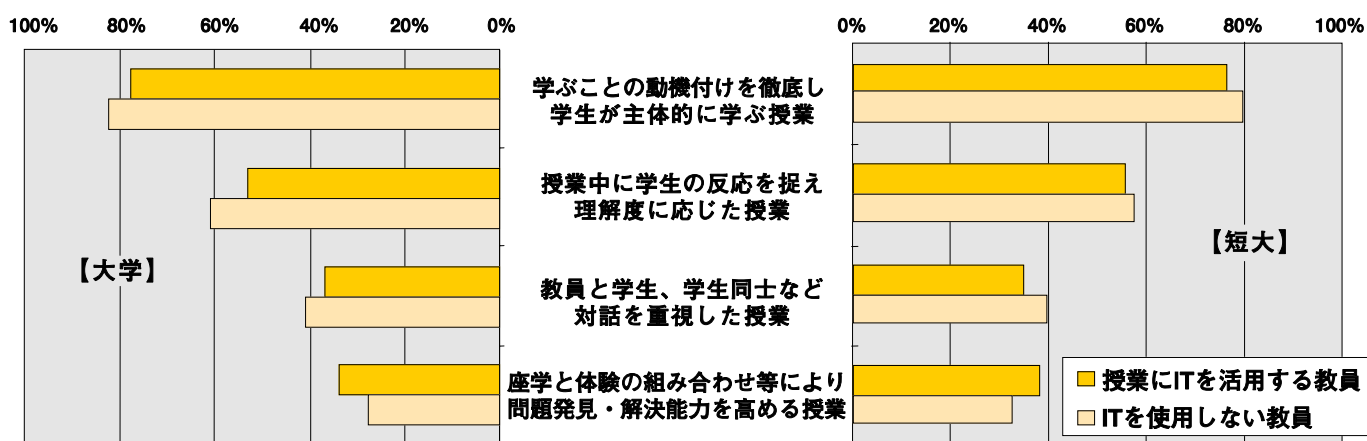
直面している問題点を踏まえて今後2年以内を実現したい授業

動機付けを持たせ、理解度を把握し、対話を重視

基礎学力の不足、学習意欲の低下という問題を抱えながらも、2年以内を実現しようとしている授業は、大学・短期大学とも8割の教員が動機付けを持たせる授業を考えている。また、2番目は、6割が授業中に何らかの方法で学生の反応を把握し、学生の目線に合わせた授業を考えている。さらに、3番目は、4割が対話を重視した授業を考えている。今後の授業のあり方としては、動機付け教育を徹底して「教える授業」から「学ぶ授業」への転換が共通認識となってきたことが伺える。また、その教育手法として、学生自らが学習行動を起こせるように、理解度に即した柔軟な授業運営の工夫が重視されようとしている。以上の結果について、IT活用教員と活用しない教員で見ても図2の通り、大学、短期大学とも、実現したい授業の傾向に差異が見られないように、教員全体の共通認識となっている。

上段：大学回答者 下段：短期大学回答者	総計	人文科学系	社会科学系	工学系	理学系	情報科学系	農学系	保健系	生活・家政系	教育系	芸術系	その他系
	24,842名 2,239名	5,439名 485名	4,983名 293名	3,003名 156名	2,089名 49名	1,509名 164名	561名 41名	4,120名 151名	614名 396名	1,313名 260名	802名 208名	409名 36名
学ぶことの動機付けを徹底し学生が主体的に学ぶ授業にしたい	79.8% 78.2%	81.8% 81.2%	78.4% 80.2%	81.7% 75.6%	84.3% 81.6%	75.7% 78.7%	80.6% 61.0%	79.9% 76.2%	78.8% 79.8%	72.9% 76.9%	74.6% 73.6%	77.8% 75.0%
事前・事後学習を徹底したい	31.0% 24.2%	33.5% 27.8%	31.6% 23.9%	35.3% 19.2%	41.7% 42.9%	31.3% 31.7%	35.3% 26.8%	25.8% 23.8%	27.7% 24.7%	15.8% 16.5%	16.8% 17.3%	32.5% 25.0%
座学と体験の組み合わせなどにより問題発見・解決能力を高める授業にしたい	30.5% 34.7%	24.1% 31.8%	25.0% 40.6%	34.4% 39.1%	22.7% 28.6%	39.3% 31.1%	34.2% 36.6%	41.2% 43.7%	38.1% 38.4%	35.6% 34.6%	25.1% 19.7%	32.3% 38.9%
教員と学生、学生同士など対話を重視した授業にしたい	39.0% 37.4%	47.4% 45.2%	43.1% 38.6%	29.2% 28.2%	34.1% 34.7%	28.6% 26.8%	32.8% 39.0%	36.5% 39.1%	28.8% 28.0%	48.1% 45.8%	37.9% 38.9%	35.2% 38.9%
シミュレーションなどによる疑似体験を駆使した授業をしたい	14.4% 14.6%	9.0% 11.5%	11.7% 19.5%	19.8% 24.4%	11.9% 22.4%	17.8% 17.7%	9.3% 7.3%	22.3% 15.2%	15.3% 11.6%	13.9% 13.8%	9.4% 11.5%	15.2% 11.1%
社会からの支援を含めるなど実践的な教育をしたい	13.8% 17.5%	9.1% 13.4%	22.0% 21.2%	14.2% 15.4%	4.8% 2.0%	14.4% 18.3%	18.2% 19.5%	9.5% 15.2%	25.2% 21.0%	16.6% 18.1%	21.4% 19.2%	12.5% 22.2%
授業中に学生の反応を捉え、理解度に応じた授業をしたい	57.0% 56.6%	60.9% 57.7%	59.0% 52.6%	57.2% 66.0%	68.0% 73.5%	55.7% 58.5%	59.0% 61.0%	50.0% 50.3%	48.9% 59.1%	50.2% 52.7%	42.0% 52.9%	59.2% 47.2%
大学間で学習成果の発表など学習意欲を刺激するような授業をしたい	7.9% 6.8%	8.9% 9.3%	8.9% 7.2%	4.8% 1.9%	4.4% 0.0%	6.5% 7.9%	6.1% 7.3%	9.0% 9.9%	8.0% 4.0%	8.4% 3.8%	16.0% 9.6%	6.4% 16.7%
実技の教育を充実したい	9.2% 17.0%	6.1% 7.8%	2.3% 7.5%	8.4% 21.2%	4.4% 4.1%	11.5% 13.4%	9.6% 19.5%	13.9% 14.6%	14.5% 19.2%	21.4% 23.8%	37.7% 43.8%	6.6% 11.1%
その他	4.3% 3.8%	5.1% 4.5%	4.5% 1.7%	4.0% 1.9%	5.5% 4.1%	5.6% 3.0%	3.7% 4.9%	2.4% 4.0%	2.6% 4.5%	4.3% 5.0%	4.9% 3.8%	5.4% 5.6%

(表4) 直面している問題点を踏まえて今後2年以内を実現したい授業

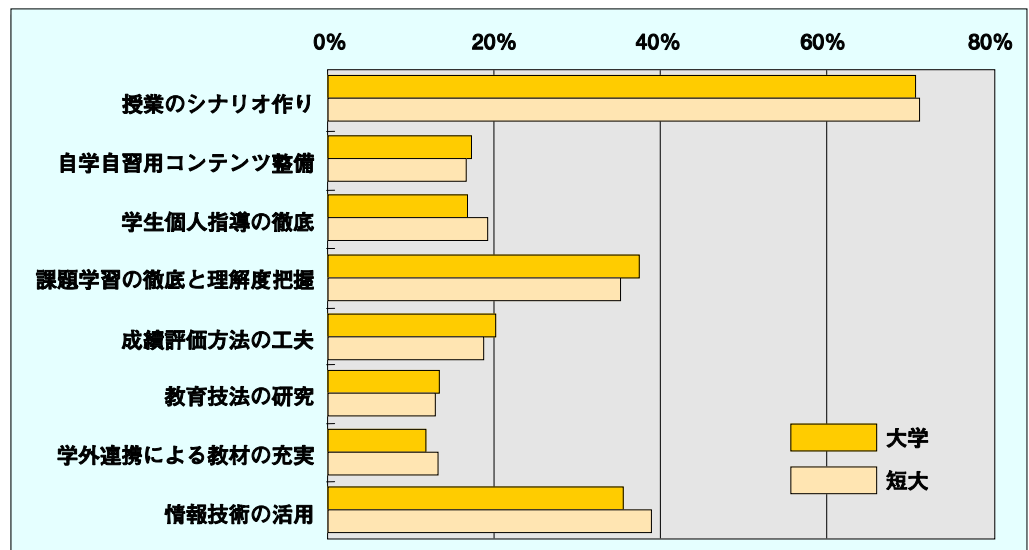


(図2) 今後2年以内を実現したい授業(主な項目)

## 授業改善のための課題

### 教員の課題は「授業のシナリオ作り」

大学・短期大学とも、授業でのIT活用の有無に関わらず、教員の7割が、自らの課題として学習意欲を高めるための授業のシナリオ作りを掲げている。教員にとって授業改善に必要な最大の課題が授業設計の成否にあることから、教員一人々の授業運営能力

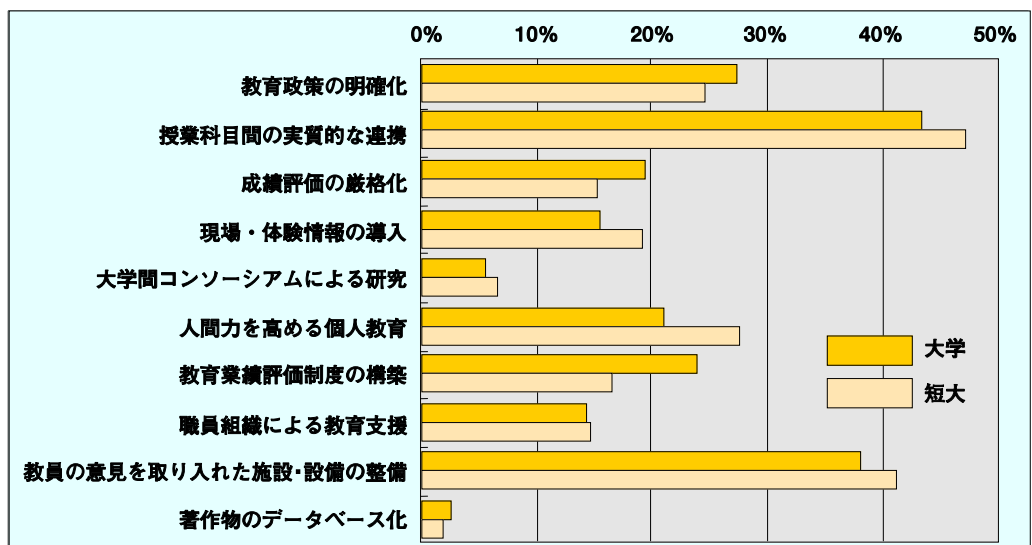


〔図3〕授業改善のための課題「教員」

の向上が求められる。授業運営の難しさは、教員と学生の世代間による様々な価値観や気質の相違もあって、教員が想定する運営とはなっていない。大学の教育改革を進める上で根幹となる問題であり、授業運営能力を養成するための何らかの対策が必要である。一大学で対応するには限界があることから、国として教員の運営指導能力が高められるような方策のガイドラインを提示し、各大学に教員の授業設計・授業運営能力向上を促進する研修を働きかけることが望まれる。授業効果を高める情報技術の活用と理解度把握を4割近くが掲げているのも、授業のシナリオ作りのために不可欠な能力と言えよう。

### 大学の課題は「授業科目間の実質的な連携、授業に即した教育環境作り」

授業改善のために大学側が対応しなければならない課題としては、大学・短期大学とも、IT活用の有無に関わらず4割の教員が学内でのカリキュラムの実質的な連携、教員の授業計画を反映した教育環境作りをあげている。特に、カリキュラム内の連携については、教員間での授業内容・教材の公開、基礎科目と応用科目との整合など、教員同士による緊密な交流が必要と思われる。また、教育環境作りの問題については、人・物・金など大学としての組織的な対応が求められているが、現状では、教員個々の授業改善の取組みを反映する



〔図4〕授業改善の課題「大学」

ような仕組み作りがないことなどが教育改善の意欲を一層低下させているように思われる。それ以外の課題として、3割程度の教員は、教育政策の明確化、成績評価の厳格化、人間力を高める個人教育、教育業績評価制度の構築を掲げており、いずれも学長を中心とする強いリーダーシップの発揮に多くが期待される。なお、教育業績評価制度については、平成3年に文部科学省の答申の中で構築の必要性を指摘しているが、その後、13年経た現在、教育の評価制度を取り入れた大学は極めて少なく、停滞している。問題は、評価の基準作りが一大学でなかなか困難であることが指摘されている。国として標準的な評価の視点を提示し、それを参考に各大学の判断で固有の評価基準を構築できるよう国の施策としての支援が望まれる。

## 授業にITを活用する教員数

### 3割以上の教員が授業にITを活用している

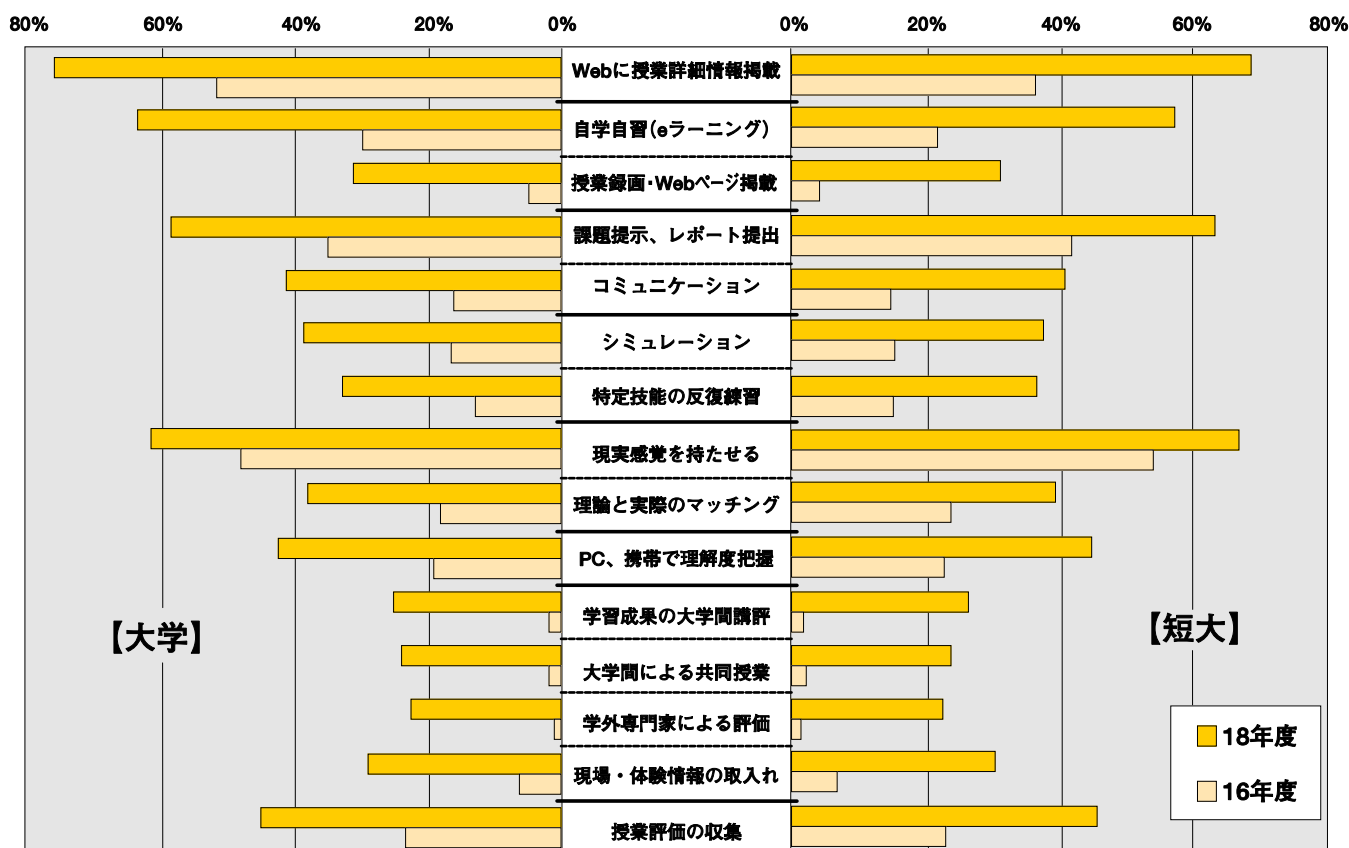
授業にITを活用している教員の数は、16年度調査では大学12,463名、短期大学では972名となっているが、3年前の調査で活用と回答した教員が一部今回の調査に未回答のため、実際の教員数の把握は、未回答のIT活用教員、大学約4,800名、短期大学約700名を加えた数とした。その結果、IT活用教員の割合は、少なくとも教員56,345名の31%、短期大学では4,500名の37%となっている。

## 授業でのIT活用状況

3年前は、資料提示、情報検索

現在は、シラバス掲載、現実感覚の創出、課題提示

2年先は、eラーニング、理解度把握、コミュニケーション



〔図5〕授業でのIT活用状況

授業でのITの活用状況を見てみると、大学・短期大学とも当初は、授業での情報検索、教材・資料の表示の道具としての活用が主であったが、今回の調査ではそのような日常的な活用を除いても、音声・動画を用いた現実感覚の導入、授業詳細情報の掲載、自学自習などへの活用が多くなってきたことが伺える。このことは、授業改善のための解決策として、ITの活用が大きなウェイトを持ち、活用を通じて教育内容・方法のあり方、学習支援の工夫など、ファカルティディベロップメントの充実に欠かせない手段となってきた。

今後、2年先での活用は、4割前後が教員と学生、学生同士によるコミュニケーション、擬似環境によるシミュレーション、パソコンや携帯電話を活用した授業時間中の理解度把握、さらにはネットワーク活用による理論と実際のマッチング、授業評価の収集を計画している。なお、現在では数パーセントとなっている授業録画のWeb掲載、学習成果の大学間講評、大学間共同授業、学外専門家による評価、特定技能の反復練習などについては、2年先には2割強の活用が考えられており、教育改善のための本格的な計画が始まることを物語っている。

以下に、現在におけるIT活用の具体的な内容および2年後の活用計画について、特徴的な活用方法を掲げる。

## (現在) 授業でのIT活用事例

### 人文科学系

外国語学	『英会話』	海外姉妹大学とeラーニングのソフトウェアを利用して共同授業を展開している。
	『英語』	IWC(Interactive Writing Community)上で英文エッセイを書かせ、他大学の先生と共同で世界の学生と英語による意見交換を行わせている。
	『英語コミュニケーション』	音声及び視覚教材をデジタル化してサーバーに登録し、学生が授業時間外においても自主的に学習できるようにしている。このようなセルフアクセスと授業時間中のグループワークを組みあわせることによって学習効果を上げる努力をしている。
	『中国語』	TV会議システムを利用して海外と結び、討論形式の授業を展開している。
	『フランス語演習』	eラーニングとTV会議を利用した実験授業をフランスの大学との間で実施しており、実用に向けて準備している。
心理学	『臨床心理学』	映像などを用いて具体的な臨床心理の場面を紹介することにより学生の理解を高めている。
文化関係学	『文化人類学』	インターネット回線や携帯電話を用いて、教室と博物館をつなぎ、現地と双方向でコミュニケーションをしながら講義を行っている。

### 社会科学系

法律学	『法情報学』	掲示板、会議室の議論では、特に社会人学生が、各分野の専門知識を提示して、「知識」「経験」の共有がなされている。
政治学	『行政学』	専用収録の講義を、スライド画面(Powerpoint)付オールインワンストリーミングビデオとして、Web上で常時視聴可能。画面上と同じスライド教材が、印刷用のPDFとして別のWeb上にあり、学習者は、自らプリントアウトし講義を受信している。
商学	『貿易商務論』	産官学連携により地域の専門家による貿易実践講座を実施し、人と組織のネットワークによる情報の活用と社会貢献を目指している。
経済学	『経済データ分析』	毎回のシラバス、講義で使用するスライド画面、演習課題用のデータなどをサーバに掲載し、学生がいつでもダウンロードできるようにしている。
	『経済原論』	携帯電話で授業に関連した記述式の質問を投げかけ、学生の解答結果をプロジェクトで即座に表示している。教員から講義をするだけの一方の授業よりは学生の反応が良い。
経営学・経営情報学	『ビジネス演習』	WBT(Web Based Training)を用いた双方向の協調学習で、ビジネスプランニングの理論と技法の習得ができるような授業を行っている。

	『ビジネス環境演習』	携帯電話、パソコン活用の授業管理システムを開発して授業運営に役立っている。
	『組織行動論』	海外の大学と合同で、ビジネスゲームの対抗戦、ビデオ会議システムによる模擬株主総会を実施している。
会計学	『会計情報論』	海外の大学とリアルタイムの交換授業を行っている。
	『財務戦略論』	ビジネスゲーム演習を通して模擬経営とマネジメント体験をさせている。
国際関係学	『平和学』	国際政治のロールプレイによるシミュレーションを実施しており、予測を上回る教育効果を上げている。

## 工学系

機械工学	『機械制作』	1年生に対して加工現象を単なる黒板に描いた図で納得させることは困難なことから、NC(Numerical Control)工作機械の動きを、シミュレーションソフトを使って擬似的に再現し、理解を助けている。
	『制御工学』	少人数グループの製作課題について、製作過程を逐次Web上に公開させ、学外の教員からその課程と最終作品を評価いただく。あらかじめ学生には、学外審査委員がいることを明示し、各グループの作品の製作過程をわかりやすく公開することを課題達成の一つと位置付けている。
	『数値計算』	eラーニングシステムを利用して学生の自主的な予習と復習を促し、質問については気軽にできるように配慮している。
建築学	『建築設計製図』	他大学と合同で建築設計製図の遠隔地講評会を実施している。他大学同同学年生との相対化も含め、モチベーションの向上に効果がある。

## 理学系

数学	『数学』	2つのキャンパスを同時に遠隔授業を実施し、学生とのスキンシップの減少を補うため授業を収録しオンデマンド配信をしている。
物理学	『電磁気学』	波の性質を、FDTD(Finite Difference Time Domain Method)法による波動伝搬のシミュレーションにより可視化し、基本的性質を視覚的に把握させている。
	『物理学』	動画シミュレーションの活用は、変化に富み、理解度を視覚的表現により高めている。
化学	『化学』	授業採点システムを用いて、教員評価・自己評価を毎回5段階採点しており、クラス全体のモチベーション向上に役立っている。
	『物理化学』	受講学生に限定してeラーニング教材を公開しており、何時でも何処からでも自学自習できるようにしている。
応用化学	『バイオ材料』	理論式の特徴を理解させるには、パラメータがどのような影響を持っているかを理解させるシミュレーションが好適である。
	『生体材料工学』	他大学との衛星授業によるコラボレーションを行い、ゲスト・スピーカーによる学習範囲の拡大と理解の促進を図っている。

## 情報科学系

情報科学	『情報科学』	プレゼンテーション演習で、前年度の事例を動画で配信することにより、学生の動機づけを明確にすることに成功している
	『論理と意味論』	過去の学生の研究成果を授業中に静止画、動画などで紹介し、講義の理解を深めている。(ロボットのソフトウェア)
情報工学	『音響心理』	250名規模の講義で、パソコンとタブレットを組み合わせたシステムを用い、事前にWebページに掲載した穴あき教材に、講義中手書きで埋めながら進めている。
リテラシー等	『情報処理』	教員だけでなく学生も加わって、作品に対する批評、講評をWeb上でやっている。
	『情報リテラシー』	離れたキャンパス間の遠隔講義を実施している。学生からは、離れていても通常の講義と同じであると評価され、成績も大変よかった。

## 農学系

獣医・畜産学	『畜産経営学』	牧場経営のシミュレーションを取り入れた経営理論の学習。
--------	---------	-----------------------------



## 保健系

医学	『解剖学』	タブレットパソコンでスライドに書き込みながら講義することにより、レーザーポインタでは理解困難な、組織構築や細胞の輪郭、位置関係を明瞭に示すことができ、学生に好評である。
	『循環器内科学』	心音、心雑音の実際の音をパソコンにより聴かせる授業を行っている。この方法により心臓聴診法の理解が深まり、かつ興味をもつ学生が増えた。心雑音、心音異常を伴う疾患についての理解が容易になった。
	『寄生虫学』	仮想患者をおいた診断では、学生がゲーム感覚で取り組めるためか、学生の集中度が高い。
	『救命救急処置』	BLS(Basic Life Support)の授業ではコンピュータシュミレーション、動画・音声を活用することで知識・行動(手技)の両面でバランスのとれた教育効果が得られている。
歯学	『摂食・嚥下学』	障害を持つ患者の映像や音声を見聞きすることは、授業の動機付けに、大変効果的である。(ただし患者のプライバシーには配慮した。)
	『歯科理工学』	授業内で即時に学生からの回答を受け集計するシステムを開発し使用しているが極めて効果が高い。
	『総合医療薬学』	タブレットを用いた電子板書システムと、数十秒程度の短時間動画・音声ファイルの再生を組み合わせることにより、学生の興味と集中力の維持に効果がある。
看護学	『看護管理学』	米国の大学からリアルタイムの遠隔授業を実施し、日本には講義できる人材のいないテーマについて授業を受けている。

## 生活・家政系

被服学	『服飾材料学』	布の組織と色柄を任意設定し、シュミレートした布柄を評価する。その後、織機で織ってみる。また、一定の体型と型紙に対し、種々の布(材料力学的性能)を与えた場合の服形態のシュミレーションを行っている。
-----	---------	---

## 教育系

教育学	『情報教育論』	TVカメラシステムを使って、教職希望者と遠隔実習を行わせる。
-----	---------	--------------------------------

## 芸術系

美術	『表現のプロセス』	Web上に学生の作品を掲載するとともに、掲示板を併設して学生同士意見を交換させている。
デザイン	『メディア表現演習』	ネットワーク上で授業の資料の公開、過去の学生の作品アーカイブ、アンケート、小テスト、質疑応答などを行っており、成果を得ている。

## (将来)

## 2年後のIT活用

## 人文科学系

外国語学	『英語』	日本に居ながら海外の大学と同じ授業を受講し、単位も取得できるようにしたい。
史学	『考古学』	モバイル端末を利用した、遺跡等からのライブ授業。
文化関係学	『日本文化』	外国大学と共同で相互にフィールド・サーベイ(ヴァーチャル)を行う。
コミュニケーション関係学	『コミュニケーション論』	海外の大学とTV会議システムを使って討論したい。

## 社会科学系

法学	『雇用と法』	Webサイトを作り、それを一般に公開し、授業内容を広く知らせ、一般社会とのコミュニケーションを図れるようにする。
商学	『マーケティング』	ビジネス実務を映像と音声で教室に取り込みたい。
経営学・経営情報学	『オペレーションズ・リサーチ』	経営上の難しい選択に迫られた経営者の状況とプロフィールを映像で紹介した上で、意思決定の選択を行う。携帯電話のCGI機能を利用して集計、実際の経営判断と比較、プロジェクターで結果をリアルタイムで表示、判断力の育成に利用する。
	『多国籍企業論』	海外工場、企業とのネットを通じた紹介・質問・交流など。

## 工学系

機械工学	『機械設計』	機械設計のみならず、全科目の理解度を把握、例えば「歯車」の何が理解でき、どこに問題があるか等を一人の学生が卒業する迄にどこの部分を理解して卒業していったかを把握する仕組み作りを行っており、今後、各学生の理解度に関するDBを構築する予定。
電気通信工学	『信号処理論』	講義をビデオ撮影し、ネットワークで配信するとともに、他の教員に教授法に関してアドバイスをもらう。
土木工学	『水資源工学』	メーリングリストなどを用いて卒業生などの協力を得て専門技術者との意見交換を行えるフィールドを構築したい。
建築工学	『建築計画』	優秀作品ギャラリーのWeb公開。

## 理学系

化学	『化学』	携帯用の基礎化学演習Webを開設した。いつでもどこでもパソコンに向かうことなく勉強できることが最大の魅力。
----	------	---

## 情報科学系

情報科学	『オーサリング』	学外との連携による授業を行いたい。できれば外部評価と結び付けたい。
情報システム学	『教育システム』	学習の意義と卒業後の進路との関係を明確化させるための、産学連携体制の強化。
情報リテラシー等	『情報リテラシー』	ネット上で学生の作品を公開し、学内だけでなく、外部からも評価を得られるようにしたい。

## 保健系

医学	『呼吸器外科学』	大学間でお互いの手術や診療実績の公表、教育の現状と実際、教材となる症例の提示をネットワークで行い、お互いをサポートしたい。
	『放射線医学』	学んだ内容が社会(現場)でどのように役立っているのかを実感できるシステム作り。
歯学	『歯内療法学』	Webカメラなどを利用した、一対一での理解度、手技の徹底。
	『口腔外科学』	現在提示している演習問題を CBT 形式で自習できるようにするとともに、臨床症状・各種検査から診断・治療方針の選択にいたるロールプレイを作成し、さらにこれらの自習中に発生した疑問に対するメールによる対応を含め、学生のレベルに合わせた自己学習を中心とした指導を目指したい。
	『歯科補綴学』	仮想現実を応用した臨床実習の実現を目指している。歯科学生にとって不可欠なボランティアの患者が不足している現状を、これによって解決したい。
	『口腔衛生学』	授業の標準化のための共同授業を実施する。
薬学	『製剤学』	衛星通信を利用した製薬会社の製造管理部門のリアルタイムに実写映像を示しながら講義の進行を行いたい。
看護学	『看護学』	プライバシーの問題があり看護情報関連は取り扱いが難しいが、産業衛生など機会の少ない場での地域看護活動の現場での理論展開シミュレーションを試みたい。
	『保健実習』	授業科目に関連した現場のカメラから、直接教室にリアルタイムで映像を Web を通じて伝送し、遠隔授業を試みたい。

## 教育系

教育学	『教育思想史』	いわゆる「eラーニング」は効果が薄いと思う。むしろ、学外(専門家、行政、他大学ゼミ、学校現場など)とライブで教室を結び、それを生きた資料として授業に取り入れる方向を考えている。
-----	---------	--

## 芸術系

デザイン	『プロダクトデザイン論』	学生自身が、企業側とネット上でコンタクトして、各自の理論を展開していける方向を目指している。
	『環境計画実技実習』	産学共同のプロジェクトを立ちあげ現実性のある実技、実習。
	『色彩構成』	より良い作品は積極的にデータ化し、後輩の育成に役立てる。
音楽	『サウンドデザイン』	学生のデジタルポートフォリオの充実。

## 先進的な授業事例の紹介

以下に、ITを活用する先進的な授業の実施例を紹介する。

### 1. eラーニングとTV会議システムを用いたフランス語学習（外国語学）

上智大学外国語学部

フランス語学習の問題点は、英語に比べて教材や読み物、話す相手が不足していることである。そのため、本授業では、自動採点機能付きのCALL教材を活用して、学生がいつでもどこでも文法学習、ヒヤリング練習できるようにしている。また、ネイティブのフランス語に接し、インタラクティブなコミュニケーションの機会を設けるため、TV会議システムを用いて現地の大学と接続し、リアルタイムの遠隔授業を試



(TV会議方式の双方向授業)

行的に実施している。授業の進め方

としては、現地の大学教員の支援を得てeラーニングシステム（WebCT）上に読解や聴解などの課題を掲載し、遠隔授業の前に学生に自学自習させるが、質疑応答は現地教員との電子メールにより行う。その上で、リアルタイムの遠隔授業を行い、ディベート、インタビュー、プレゼンテーションなどの高度な会話能力を習得できるように工夫している。



(CALL 学習教材の画面イメージ)

### 2. 海外の大学とネットワークを介したビジネスゲームの実施（経営学）

大阪国際大学経営情報学部

経営学は、理論と実際のビジネスの動向を照合することが不可欠であるが、学生が実務に携わることは現実的に不可能である。そこで、ビジネスゲームを通じて、マネージメントを擬似体験させることにより、シビアな現実を体感させるとともに、理論的側面の重要性を認識



(ゲーム結果を踏まえたTV会議方式による模擬株主総会)

させることができる。さらに、海外の大学と共同実施することにより、学生の競争心を駆り立て、動機付けを高めることができる。



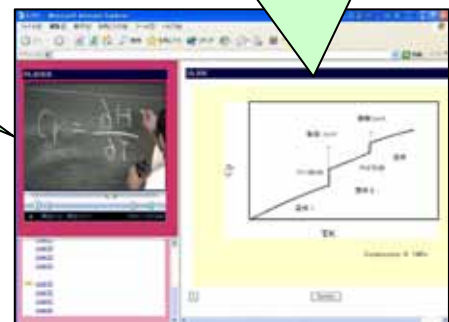
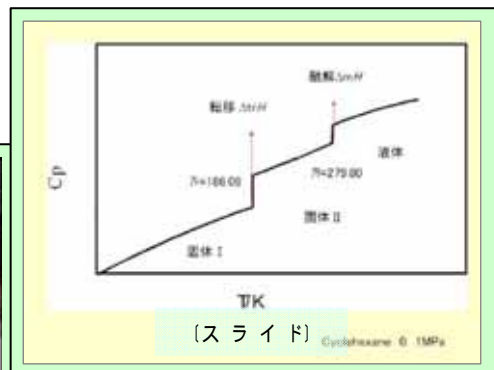
このビジネスゲームの成果報告会は、模擬株主総会として開催するが、ここではPC会議システムを用いて、海外の大学と合同で開催している。このことが、さらなる臨場感をもたらし、学習意欲の向上の一助として機能していると言えよう。

### 3. 授業録画とeラーニングによる事前事後学習の徹底（化学）

近畿大学理工学部

化学の授業では、数式や図表を多用するため、必然的に板書  
量も多くなるので、学生は教員の話には耳を傾けず、板書をノ  
ートに写すことで終始するか、その  
逆に、教員の話に集中することで、  
板書をノートに纏め切れないこと  
がある。そのため、授業内容を十分  
に理解しないまま、次の授業へと進  
んでしまうことが多い。

そこで、教室授業での理解を補充  
するために、毎回の授業風景をデジ  
タルで録画し、授業内容とスライドを同期させたeラーニ  
ングコンテンツを自作し、Web上に掲載している。このことにより、  
積み重ねによる学習の徹底が可能となり、理解度に応じた学習が可  
能となった。なお、このコンテンツは、アクセス状況から講義進度  
の調節や理解度を追跡調査するためにも利用しており、一般には公  
開していない。



### 4. シミュレーションによる擬似体験演習（経営工学）

武蔵工業大学工学部

生産システム工学は、実学的要素が強いため、工場などの現場  
の活動や技術をありのままに示した情報の提供が、学生の理解度  
向上の促進につながる。そこで、本授業では、自学自習のために、  
実際の製品の生産現場の様子を撮影した映像と、工場における生  
産情報の流れを可視化したアニメーションを組み合わせた教材  
を構築し、生産システムにおける実態を現実的な感覚で理解でき  
るようにしている。

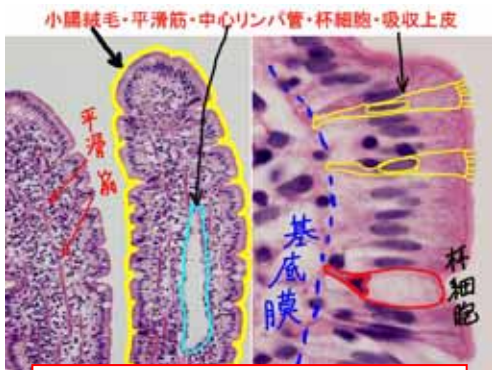
そのほか、生産システムの専門技術を分かりやすく具体的習得  
するために、実写映像を含むコンベヤ・システムの選択法など  
種々のシミュレーション教材も作成している。このような設計行  
為の擬似体験による学習は、理論と実際のマッチングを図り、手  
法と実社会との関連性を認識し、動機付けを高めて学習意欲を喚  
起することに役立っている。



## 5 . コンテンツのマーキングによる理解の促進 (医学)

### 獨協医科大学医学部

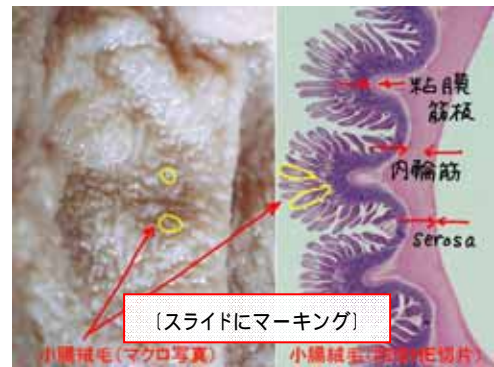
解剖学教育の目標は、肉眼標本や顕微鏡標本を供覧し、それから所見を読みとる観察力を育成することである。そのため、実際の標本の画像をスライドに貼り付け、スクリーン上で提示し、学生の理解度向上に努めている。しかし、口頭説明やレーザーポインタによる該当部位の指示だけでは、学生にとって理解が困難である場合が多い。そこで、レーザーポインタの代わりに、タブレット PC を用いて、ス



(組織、細胞の位置関係の指示に役立つ)

ライドや画像に説明の書き

込みやマーキングを行うことにより、組織構築や細胞の輪郭、位置関係を明瞭に示すことが可能となり、学生の理解度の向上にも役立つ、学生からの評価も高い。今後は、音声とマーキングされたコンテンツをアーカイブ化し、学生の自学自習教材として活用することを考えている。



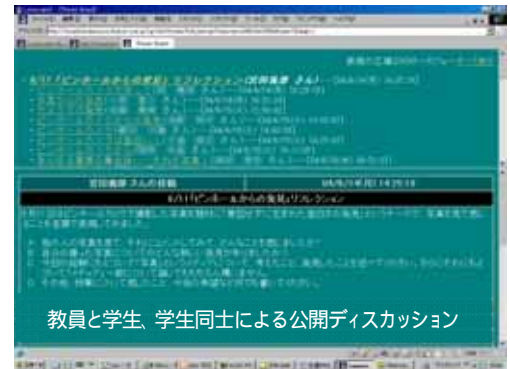
## 6 . Web サイト上で学生作品の公開とディスカッション (美術・デザイン学)

### 中京大学情報科学部

芸術学では、学生の作品に数量的な評価を与えることが困難であり、また教員による評価が必ずしも客観性を帯びているとは言えない。むしろ、学生が相互に作品を講評することにより、他者の多様な意見を吸収し、次なる作品への製作意欲や多彩な表現能力を涵養することができる。

そこで、本授業では、学生のカメラ付携帯電話から、自ら制作した作品の画像を、サーバ上にアップロードすることが可能な掲示板システムを用いて、教員 - 学生間、学生相互による講評を対面授業に加えてオンラインでも継続できるようにしている。講義を電子化し、Web 上で公開することにより、学生同士に刺激を与え、向上心を喚起することができる。また、学外の専門家からの評価を受けることが可能になることから、学生にとってはプロの目から見た助言を受けることにより、能力の通用性が確認できる。

【研究室 URL : <http://miyata.hiroba.sccs.chukyo-u.ac.jp/>】

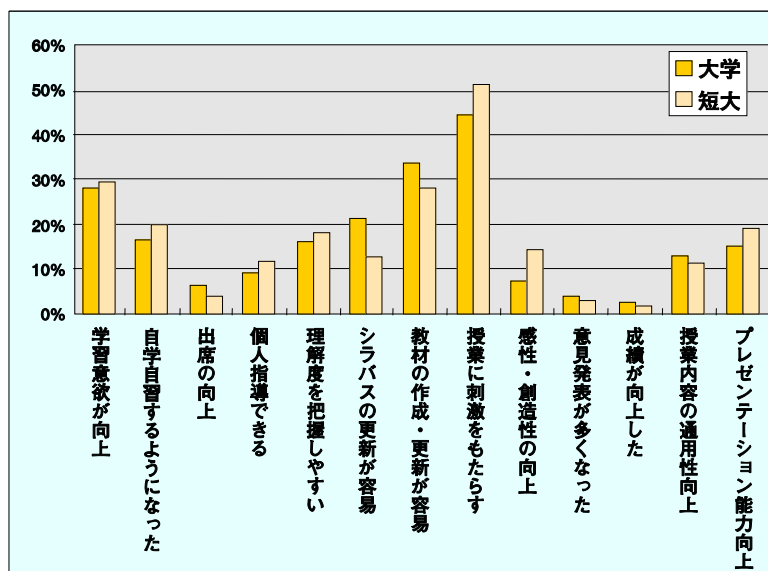


効果：刺激的な授業を実現、学習意欲の向上

問題点：理解しているようで理解していない、ノートをとらない

IT活用の授業効果を見てみると、大学・短期大学とも5割近くの教員が授業に刺激をもたらす、3割近くが学習意欲が高まってきたとしている。しかし、教育効果を測定する成績の向上を客観的に見てみると、ほとんどの教員が成績が向上したとしていない。

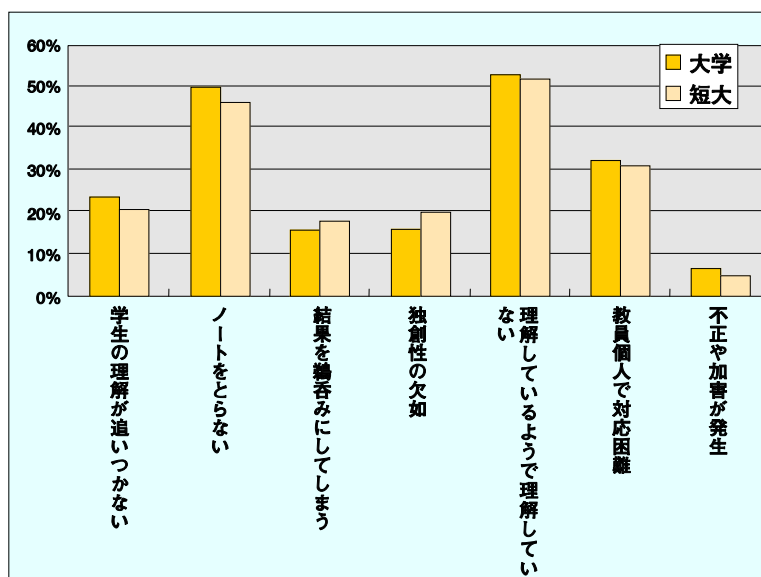
このことは、ITの活用だけで成績が向上するのではなく、むしろ、授業の中でITをどのような場面でどのように活用するかという授業のシナリオ作りが前提になれば、総合的な効果は現れない。一面、刺激があり、学習意欲が高まったとしても、学生の反応であって、成績の向上とは必ずしも関連しない。



(図6-1) 授業でITを活用した場合の効果

IT活用で特に際立って問題となっているのが、理解しているように見えて実際には理解していないという経験を5割前後の教員がしている。さらに、Webに教材などを掲載することにより、学生自身で講義の内容をノートするという習慣がなくなりつつあることを指摘している。

授業設計する上で十分配慮しなければならぬ問題で、効果を考えないITの多用は好ましくなく、可能性と限界をわきまえて使用することが望まれる。



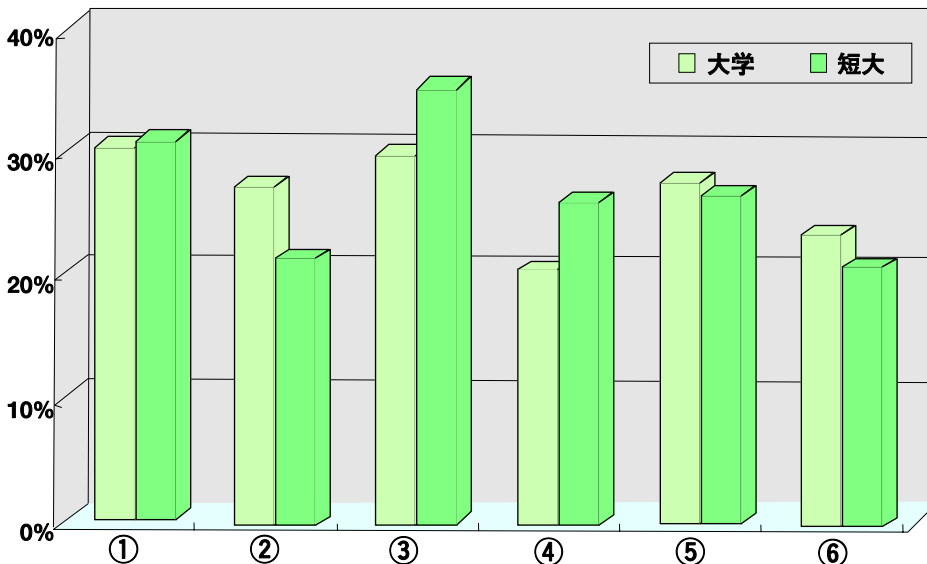
(図6-2) 授業でITを活用した場合の問題点

## 授業改善コンソーシアム

### 教員の情報技術活用講習

### 教育の産学官連携

一大学では解決できない教育改善の取り組みとして、3割の教員が分野別の授業改善を目指したコンソーシアムの必要性をあげている。教員一人での問題解決には限界があることから、ネットワークを介して大学を超えた連携により、教育問題の解決に向け日常的な情報交流や授業の共同化などが求められてくる。また、教員に情報技術の修得を支援するための講習も同様に、多くの大学の事例や体験を踏まえて学べるような全国的な支援が要望されている。さらに、社会からの教育支援として、教育の産学官による連携の実現、著作権処理の仲介事業についても要望が高い。特に、教育の産学官の連携は、教育に社会の感覚や体験を導入することにより、大学では実現できない学習の動機付けや現実感覚を持たせることが可能になるとともに、社会との接点を多くすることで、個人と社会との関係など就労意識の醸成、人間力の養成を通じてニート・フリーター化の防止にも寄与することから、国の施策として何らかの仕組み作りに関与することが望まれる。この他に、ITを活用した教育方法の研究発表、電子ジャーナル・データベースの共同購入も2割程度となっており、全体的にどの項目も大学の枠を越えたレベルでの取り組みが必要であることを物語っている。なお、これらの事業の多くは、既に社団法人私立大学情報教育協会にて取り組んでいる課題でもあるが、今後、国公私に亘る大学、教員の積極的な参加が得られるよう体制や環境について一層の充実が必要である。



学問分野別の授業改善交流コンソーシアムの運営  
 電子著作物の著作権処理に関する仲介事業  
 教員向け情報技術活用の講習 (eラーニング講習など)  
 ITを活用した教育方法の研究発表  
 教育の産官学連携の実現 (社会からの授業支援、大学からの出前授業など)  
 教育研究情報の共同購入 (電子ジャーナル、データベース)

〔図7〕一大学では解決できない取り組み

## 教育改善のための課題と対応策のまとめ

教育へのIT活用の有無にかかわらず、教員一人々の教育改善の努力なくして、教育改革は実現できない。大学は、教育改善の実現に向け、最適な教育政策と強力な行動力が要請される。

### 1. 教員自身の課題

教員にとっては、授業のシナリオ作りが最大の課題となっている。授業目標を達成するために、どのように授業を設計し、運営することが効果的であるか、教員それぞれが体験の中で取り組んでいるが、体験そのものに限界があるので、他大学の事例を収集し、教育効果の面から可能性と限界を整理し、大学の支援が得られる範囲で実践していくことが必要となる。そのためには、日々ファカルティ・デベロップメントの工夫・研究について関心を持ち、教育内容・方法について、学内でのFD研究会および他大学や社会の専門家による学会、コンソ - シアムなどにおいて問題提起し、情報交流するとともに、積極的にアドバイスなどの支援を受けることが望まれる。

### 2. 大学としての課題

教育理念はあるが、それを具現化するための教育政策が明確でない。そのことがカリキュラム内の連携実現の共通認識、義務感を希薄化させ、ひいては、授業改善を目指す教員の意欲、連帯感を消失させてしまうことにもなる。学長、学部長は、強いリーダーシップを発揮して、教育政策の点検・評価と改善策の具体化、授業改善を支援する体制・補助金の活用、教育の業績評価制度の構築、学生一人々の人間力教育の徹底、成績評価の厳格化と統一化などの改善に取り組むことが望まれる。

### 3. 大学を超えた課題

#### 《本協会が取り組む課題》

- \* ネットワークを介しての分野別コンソ - シアムによる授業改善の情報交流、共同授業の企画・実施、コア・カリキュラムの研究、コンテンツの共同開発、優れた教育方法・コンテンツの紹介。
- \* 社会からの教育支援、大学の社会貢献など産学官連携の支援
- \* ITを活用した教育方法の評価・顕彰と教育業績評価の紹介
- \* 教員の情報技術活用講習の支援、電子著作物権利処理の代行業業
- \* 電子ジャーナル・データベースの共同購入

#### 《文部科学省の施策とすべき課題》

- \* 大学教員の授業運営能力を養成する方策のガイドライン作り
- \* 教育に社会の感覚、体験を導入するための教育の産学官連携の仕組み作りと振興普及
- \* 大学教員の教育業績評価の指標作り







『平成 16 年度私立大学教員による授業改善調査』 回答大学・短期大学一覧

大学 (335 校)

1. 旭川大学
2. 札幌大学
3. 札幌学院大学
4. 道都大学
5. 苫小牧駒澤大学
6. 函館大学
7. 藤女子大学
8. 北星学園大学
9. 北海学園大学
10. 北海道北見大学
11. 北海道医療大学
12. 北海道工業大学
13. 北海道東海大学
14. 北海道薬科大学
15. 酪農学園大学
16. 岩手医科大学
17. 石巻専修大学
18. 仙台白百合女子大学
19. 東北学院大学
20. 東北工業大学
21. 東北福祉大学
22. 東北薬科大学
23. いわき明星大学
24. 東日本国際大学
25. 筑波学院大学
26. 常盤大学
27. 流通経済大学
28. 足利工業大学
29. 作新学院大学
30. 獨協医科大学
31. 白鷗大学
32. 上武大学
33. 跡見学園女子大学
34. 共栄大学
35. 埼玉医科大学
36. 埼玉工業大学
37. 十文字学園女子大学
38. 城西大学
39. 女子栄養大学
40. 駿河台大学
41. 聖学院大学
42. 西武文理大学
43. 東京国際大学
44. 獨協大学
45. 日本工業大学
46. 人間総合科学大学
47. 文教大学
48. 平成国際大学
49. 武蔵野学院大学
50. 江戸川大学
51. 敬愛大学
52. 秀明大学
53. 淑徳大学
54. 城西国際大学
55. 聖徳大学
56. 清和大学
57. 千葉科学大学
58. 千葉経済大学
59. 千葉工業大学
60. 千葉商科大学
61. 中央学院大学
62. 帝京平成大学
63. 東京歯科大学
64. 東京情報大学
65. 東京成徳大学
66. 東洋学園大学
67. 麗澤大学
68. 和洋女子大学
69. 青山学院大学
70. 亜細亜大学
71. 桜美林大学
72. 大妻女子大学
73. 嘉悦大学
74. 学習院大学
75. 学習院女子大学
76. 北里大学
77. 共立薬科大学
78. 杏林大学
79. 国立音楽大学
80. 慶應義塾大学
81. 惠泉学園大学
82. 工学院大学
83. 国学院大学
84. 国際基督教大学
85. 国士館大学
86. 駒澤大学
87. 実践女子大学
88. 芝浦工業大学
89. 順天堂大学
90. 上智大学
91. 昭和大学
92. 昭和女子大学
93. 昭和薬科大学
94. 白百合女子大学
95. 杉野服飾大学
96. 成蹊大学
97. 成城大学
98. 聖心女子大学
99. 清泉女子大学
100. 専修大学

101. 創価大学
102. 大正大学
103. 大東文化大学
104. 高千穂大学
105. 拓殖大学
106. 多摩大学
107. 玉川大学
108. 中央大学
109. 津田塾大学
110. 帝京大学
111. 東海大学
112. 東京家政大学
113. 東京家政学院大学
114. 東京経済大学
115. 東京工芸大学
116. 東京慈恵会医科大学
117. 東京女子大学
118. 東京女子医科大学
119. 東京電機大学
120. 東京農業大学
121. 東京富士大学
122. 東京理科大学
123. 東邦大学
124. 桐朋学園大学
125. 東洋大学
126. 日本大学
127. 日本歯科大学
128. 日本女子大学
129. 日本女子体育大学
130. 文化女子大学
131. 文京学院大学
132. 法政大学
133. 星薬科大学
134. 武蔵大学
135. 武蔵工業大学
136. 武蔵野大学
137. 武蔵野美術大学
138. 明治大学
139. 明治学院大学
140. 明治薬科大学
141. 明星大学
142. 立教大学
143. 立正大学
144. 和光大学
145. 早稲田大学
146. 麻布大学
147. 神奈川大学
148. 神奈川工科大学
149. 神奈川歯科大学
150. 関東学院大学
151. 相模女子大学
152. 産能大学
153. 湘南工科大学
154. 女子美術大学
155. 鶴見大学
156. 桐蔭横浜大学
157. 東洋英和女学院大学
158. フェリス女学院大学
159. 新潟経営大学
160. 新潟国際情報大学
161. 金沢学院大学
162. 金沢工業大学
163. 金沢星稜大学
164. 北陸大学
165. 福井工業大学
166. 帝京科学大学
167. 山梨学院大学
168. 諏訪東京理科大学
169. 朝日大学
170. 岐阜経済大学
171. 岐阜聖徳学園大学
172. 中京学院大学
173. 中部学院大学
174. 東海女子大学
175. 静岡英和学院大学
176. 静岡産業大学
177. 静岡文化芸術大学
178. 静岡理工科大学
179. 聖隷クリストファー大学
180. 愛知大学
181. 愛知医科大学
182. 愛知学院大学
183. 愛知学泉大学
184. 愛知工業大学
185. 愛知淑徳大学
186. 金城学院大学
187. 椋山女子学園大学
188. 大同工業大学
189. 中京大学
190. 中京女子大学
191. 中部大学
192. 東海学園大学
193. 同朋大学
194. 東邦学園大学
195. 豊田工業大学
196. 名古屋音楽大学
197. 名古屋外国語大学
198. 名古屋学院大学
199. 名古屋経済大学
200. 名古屋産業大学
201. 名古屋女子大学

202. 名古屋造形芸術大学
203. 名古屋文理大学
204. 南山大学
205. 日本福祉大学
206. 名城大学
207. 皇學館大学
208. 鈴鹿医療科学大学
209. 三重中京大学
210. 四日市大学
211. 聖泉大学
212. びわこ成蹊スポーツ大学
213. 平安女学院大学
214. 大谷大学
215. 京都外国語大学
216. 京都学園大学
217. 京都産業大学
218. 京都女子大学
219. 京都造形芸術大学
220. 京都創成大学
221. 京都橘女子大学
222. 京都ノートルダム女子大学
223. 京都文教大学
224. 同志社大学
225. 同志社女子大学
226. 花園大学
227. 佛敎大学
228. 立命館大学
229. 龍谷大学
230. 追手門学院大学
231. 大阪学院大学
232. 大阪経済大学
233. 大阪経済法科大学
234. 大阪芸術大学
235. 大阪工業大学
236. 大阪国際大学
237. 大阪産業大学
238. 大阪歯科大学
239. 大阪樟蔭女子大学
240. 大阪商業大学
241. 大阪女学院大学
242. 大阪体育大学
243. 大阪電気通信大学
244. 大谷女子大学
245. 関西大学
246. 関西医科大学
247. 関西外国語大学
248. 関西福祉科学大学
249. 近畿大学
250. 四天王寺国際仏敎大学
251. 摂南大学
252. 千里金蘭大学
253. 太成学院大学
254. 帝塚山学院大学
255. 梅花女子大学
256. 阪南大学
257. 東大阪大学
258. 桃山学院大学
259. 芦屋大学
260. 大手前大学
261. 関西国際大学
262. 関西学院大学
263. 甲子園大学
264. 甲南大学
265. 甲南女子大学
266. 神戸学院大学
267. 神戸芸術工科大学
268. 神戸国際大学
269. 神戸松蔭女子学院大学
270. 神戸女学院大学
271. 神戸親和女子大学
272. 神戸山手大学
273. 聖和大学
274. 園田学園女子大学
275. 姫路獨協大学
276. 兵庫大学
277. 武庫川女子大学
278. 流通科学大学
279. 帝塚山大学
280. 天理大学
281. 奈良大学
282. 奈良産業大学
283. 岡山理科大学
284. 吉備国際大学
285. 倉敷芸術科学大学
286. ノートルダム清心女子大学
287. 呉大学
288. 比治山大学
289. 広島経済大学
290. 広島工業大学
291. 広島国際学院大学
292. 広島修道大学
293. 広島女学院大学
294. 広島文教女子大学
295. 福山大学
296. 安田女子大学
297. 徳山大学
298. 梅光学院大学
299. 山口東京理科大学
300. 四国大学
301. 四国学院大学
302. 高松大学

303. 松山大学
304. 松山東雲女子大学
305. 高知工科大学
306. 九州栄養福祉大学
307. 九州共立大学
308. 九州国際大学
309. 九州産業大学
310. 九州情報大学
311. 九州女子大学
312. 久留米大学
313. 久留米工業大学
314. 西南学院大学
315. 第一薬科大学
316. 筑紫学園大学
317. 東和大学
318. 中村学園大学
319. 福岡大学
320. 福岡工業大学
321. 福岡国際大学
322. 福岡女学院大学
323. 活水女子大学
324. 長崎外国語大学
325. 長崎総合科学大学
326. 九州東海大学
327. 熊本学園大学
328. 崇城大学
329. 日本文理大学
330. 別府大学
331. 立命館アジア太平洋大学
332. 九州保健福祉大学
333. 宮崎産業経営大学
334. 鹿児島国際大学
335. 沖縄国際大学

短期大学 (155 校)

1. 旭川女子短期大学部
2. 札幌大学女子短期大学部
3. 専修大学北海道短期大学
4. 拓殖大学北海道短期大学
5. 北星学園大学短期大学部
6. 北海道自動車短期大学
7. 酪農学園大学短期大学部
8. いわき短期大学
9. 常盤短期大学
10. 東京家政学院筑波女子短期大学部
11. 足利短期大学
12. 作新学院大学女子短期大学部
13. 佐野短期大学
14. 白鷗大学女子短期大学部
15. 共栄学園短期大学
16. 埼玉短期大学
17. 十文字学園女子大学短期大学部
18. 城西大学女子短期大学部
19. 江戸川短期大学
20. 順天堂医療短期大学
21. 聖徳大学短期大学部
22. 千葉敬愛短期大学
23. 千葉経済大学短期大学部
24. 東京経営短期大学
25. 青葉学園短期大学
26. 青山学院女子短期大学
27. 亜細亜大学短期大学部
28. 跡見学園女子大学短期大学部
29. 桜美林大学短期大学部
30. 大妻女子大学短期大学部
31. 嘉悦大学短期大学部
32. 駒澤短期大学
33. 産能短期大学
34. 美哉女子短期大学
35. 昭和女子大学短期大学部
36. 女子栄養大学短期大学部
37. 女子美術大学短期大学部
38. 白梅学園短期大学
39. 杉野服飾大学短期大学部
40. 成城大学短期大学部
41. 創価女子短期大学
42. 拓殖短期大学
43. 帝京大学短期大学
44. 戸板女子短期大学
45. 東海大学短期大学部
46. 東京家政大学短期大学部
47. 東京家政学院短期大学
48. 東京成徳短期大学
49. 東京農業大学短期大学部
50. 東京富士大学短期大学部
51. 東横学園女子短期大学
52. 日本大学短期大学部
53. 文化女子大学短期大学部
54. 文京学院短期大学
55. 明治大学短期大学
56. 山野美容芸術短期大学
57. 立教女学院短期大学
58. 惠泉学園短期大学
59. 相模女子大学短期大学部
60. 上智短期大学
61. 湘南短期大学
62. 鶴見大学短期大学部
63. 東海大学医療技術短期大学
64. 文教大学女子短期大学部
65. 横浜創英短期大学
66. 日本歯科大学新潟短期大学

67. 星棧女子短期大学
68. 山梨学院短期大学
69. 岐阜医療技術短期大学
70. 岐阜聖徳学園大学短期大学部
71. 中部学院大学短期大学部
72. 中日本自動車短期大学
73. 静岡英和学院大学短期大学部
74. 静岡福祉大学短期大学部
75. 聖隷クリストファー看護短期大学部
76. 愛知大学短期大学部
77. 愛知学院大学短期大学部
78. 愛知学泉短期大学
79. 中京女子大学短期大学部
80. 東海学園大学短期大学部
81. 東邦学園短期大学
82. 名古屋学芸大学短期大学部
83. 名古屋経営短期大学
84. 名古屋経済大学短期大学部
85. 名古屋女子大学短期大学部
86. 名古屋聖霊短期大学
87. 名古屋造形芸術大学短期大学部
88. 名古屋文理短期大学
89. 南山短期大学
90. 三重中京大学短期大学部
91. 聖泉大学短期大学部
92. 京都外国語短期大学
93. 京都経済短期大学
94. 京都女子大学短期大学部
95. 龍谷大学短期大学部
96. 大阪青山短期大学
97. 大阪学院短期大学
98. 大阪芸術大学短期大学部
99. 大阪工業大学短期大学部
100. 大阪国際大学短期大学部
101. 大阪産業大学短期大学部
102. 大阪女子短期大学
103. 大阪信愛女学院短期大学
104. 大阪成蹊短期大学
105. 大阪電気通信大学短期大学部
106. 大谷女子短期大学
107. 関西外国語大学短期大学部
108. 関西女子短期大学
109. 近畿大学短期大学部
110. 四天王寺国際仏敎大学短期大学部
111. 千里金蘭大学短期大学部
112. 梅花女子大学短期大学部
113. 東大阪大学短期大学部
114. 大手前短期大学
115. 甲子園短期大学
116. 神戸学院女子短期大学
117. 神戸松蔭女子学院短期大学
118. 神戸山手短期大学
119. 産業技術短期大学
120. 夙川学院短期大学
121. 聖和大学短期大学部
122. 園田学園女子大学短期大学部
123. 兵庫大学短期大学部
124. 武庫川女子大学短期大学部
125. 大阪樟蔭女子大学短期大学部
126. 帝塚山大学短期大学部
127. 奈良文化女子短期大学
128. 順正短期大学
129. 呉大学短期大学部
130. 鈴養女子短期大学
131. 比治山大学短期大学部
132. 広島国際学院大学自動車短期大学部
133. 広島文化短期大学
134. 安田女子短期大学
135. 四国大学短期大学部
136. 四国学院短期大学
137. 高松短期大学
138. 松山短期大学
139. 松山東雲短期大学
140. 九州女子短期大学
141. 九州造形短期大学
142. 近畿大学九州短期大学
143. 純真女子短期大学
144. 筑紫学園短期大学
145. 帝京大学福岡短期大学
146. 東海大学福岡短期大学
147. 中村学園大学短期大学部
148. 東筑紫短期大学
149. 福岡工業大学短期大学部
150. 福岡女学院大学短期大学部
151. 福岡女子短期大学
152. 活水女子短期大学
153. 長崎外国語短期大学
154. 別府大学短期大学部
155. 鹿児島国際大学短期大学部

社団法人私立大学情報教育協会

[info@juce.jp](mailto:info@juce.jp)

<http://www.juce.jp>